

# エコ・キャンパスの保全と利用

## —植物管理室の取組みと提案—

技術センター理学部等部門研究実験技術班  
○青山幹男 塩路恒生

### 背景と取組みの必要性

#### 歴史的背景:

農耕文化に培われた日本の原風景とそこに生息する里山生物



日本全国に分布するサギソウは美しい野生ランで自生地が減少している。保護活動も多いが他の地域の株を植え込む遺伝子攪乱のおそれがある

#### 社会情勢:

生活様式の変化  
農業・土木技術の発達



#### 大学の責務:

キャンパスに残された希少生物の適正な保全と公開利用



湿った水田の環境に生息するオオコオイムシ。一回り小さなコオイムシは少ない



美しい色と甘い香りの花を咲かせるササユリは松林や草原に多いが、下刈りなどが行われないと日陰になり減少する



最も小さい赤とんぼのハッチョウトンボは日当たりがよい湿地に生息する

### 希少植物の増殖

サギソウの無菌培養  
採取や環境変化により減少  
種子が小さく培養技術が必要  
地理的な遺伝変異がある



長さが1mm程度の種子は自分で発芽する養分を持たないため共生菌を利用している



プラスチック内の無菌状態で発芽をはじめた今年のキャンパス内採取のサギソウ種子

### 水生植物の栽培増殖

溜池の減少や環境の変化により絶滅が危惧される種類が多い  
適切な栽培技術が確立されていない  
全国的にみて希少な種類が多く自生している



### 里山生態系の保全

昔々あるところに……  
おじいさんは山へ柴刈りに  
おばあさんは川へ洗濯に……

里山は人為的な利用により維持されてきた生態系です  
管理がなくなると群落の遷移が進み生態系が変化します

保全のポイント  
外来生物の駆除  
ザリガニ、ブラックバスなどを  
持ち込まない  
遺伝子攪乱の防止  
地域の動植物を保存する  
多様な生態環境の創生



毎年柴刈りを行い、ササユリ、エヒメアヤメを保全する

ススキ、ヨシ、ゼンマイなどの大型草本を抜いて、日当たりがよい湿地を維持する

水深や水流の変化を作り、抽水性水草などの植え込みにより水生昆虫の種類を増やす

学内の環境整備についても生態系への配慮が必要

### 情報公開と利用



環境への取組みについて私たちができること

提案1  
技術センターの専門集団として技術を出し合ってエコ・キャンパスの生態管理を行う  
(里山の維持管理作業、多様な生態環境の創出、有害動植物の駆除、ボランティアの募集)

提案2  
里山生物の調査と記録  
観察会などによるエコキャンパスの公開利用  
環境問題に関する啓蒙活動

提案3  
学内外の専門家や愛好家との連携による観察会を企画  
春のスミレ観察会: 約10種類のスミレ探しと生態環境の違いを見る  
チョウとトンボの観察会: 谷や草原で見かける種類が違います  
冬鳥の観察会: 木立の中や池に飛来する野鳥の観察会